

# 郡上農林事務所の普及活動状況

令和2年8月25日現在

## 今月の重点活動

### ■スマート農業 畑地センサで、だいこんほ場を見える化

8月1日「ひるがの高原だいこんスマート農業実証」にて、畑地センサ「MIHARAS」を高鷲地内5カ所のは場に設置した。

畑地センサは、気温、地温、土壌水分、EC値を24時間自動測定でき、ほ場の生育環境を数値化、さらにクラウドにデータを蓄積し、農家と普及指導員との情報共有も速やかに行える。

だいこん栽培では、夏季の灌水や追肥作業のタイミングが重要だが、これまでは農家の経験と勘によって実施されてきた。

今回設置した畑地センサで、ほ場状態を見える化することができれば、経験の浅い者でも適期作業が可能となる。

農業普及課では、条件の異なる5カ所のセンサデータとだいこんの生育を比較分析するなど、新たな技術の普及に取り組む。



【畑地センサと表示画面】

## 多様な担い手づくり

### ■指導農業士 中濃ブロック合同研修会を開催

8月26日、郡上指導農業士会が、武儀・中濃地区の指導農業士会と合同で現地研修会を開催した。

研修会では、いずれも指導農業士が代表を務める「(株)ひるがのリーリオ(ユリ生産)」と「(株)エスタンシア(だいこん生産)」を訪問し、両社長から経営方針や社員育成について説明を受け、スマート農業実証事業に取り組む(株)エスタンシアでは、リモコン草刈機の実演も併せて行われた。

コロナ禍でかつてない状況のなか、お互いの経営を訪問することで、励まし合う良い機会にもなった。

農業普及課では、これからも地域のリーダーである指導農業士会の活動を積極的に支援していく。



【経営を紹介する農業士】

### ■青年農業士 若手農業者PRイベント(農産物の直売)を開催

郡上地区青年農業士連絡協議会では、若手農業者に呼びかけ農産物のPRと消費者ニーズ把握の機会として、8月23、30日に郡上市の協力のもと、郡上旬彩館駐車場にて農産物直売を実施した。

当日は、コロナ対策を行いつつ、軽トラの荷台を使って自ら生産したトマトやキュウリ、加工品などを販売、農産物の特徴や食べ方をPRするとともに、購買者とのやり取りをとおして、消費者が求める農産物などの情報を直接感じることができた。

農業普及課は、新型コロナで例年どおりの活動が難しいなかではあるが、関係機関と連携を図り、会の活動支援に取り組む。



【軽トラで農産物直売】

## 売れるブランドづくり

### ■夏秋トマト 後半の収量確保に向けた地域別研修会

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会では、通常は栽培期間を通して毎月研修会を開催して

いるが、今年は新型コロナウイルスの影響により、開催回数や地域が制限されてきた。

それでも、重要な管理ポイントである8月には、三密を避けて市内4会場で研修会を開催し、計30名の部会員が参加した。

農業普及課では、単価の高い後半の収量確保に向け、草勢管理や病害対策を重点に指導を行った。

また、新しく「郡上トマトの学校」に設置したモニタリング装置によるハウス環境の数値化など、スマート農業の取り組みも紹介した。



【熱心に話を聞く部会員】

### ■水稲 郡上産米ブランド化研究会の現地研修会

米の食味向上や販売方法を検討する「郡上産米ブランド化研究会」が、8月25日に明宝地区で現地研修会を開催した。

当日は、昨年の「第5回郡上おいしい米コンテスト」で上位入賞したほ場を見学、これまでの生育状況、今後の栽培管理について意見交換を行い、また、今年も多くのお味コンテストへ出品し郡上産米の評価を高めることが合意された。

農業普及課では、研究会の運営を支援するとともに、地元関係機関との連携のもと、郡上産米のブランド化を進める。



【普及指導員が生育を説明】

### ■ひるがのフラワーサークル トルコギキョウの出荷目揃え

お盆前の本格的な出荷を前に、ひるがのフラワーサークル・トルコギキョウ部会では、8月6日に出荷目揃えを実施した。

当日は、部会員それぞれがサンプルを持ち寄り、今後の生産見込みの情報を共有するとともに、今年の出荷規格の目合わせを行った。

本年は、6～7月の日照不足の影響を受け生育が遅れ気味ではあるものの、梅雨明け後には好天が続いたことから8月以降に出荷が大きく増加する見込みとなった。

出荷規格では、昨年度の市場等の評価を踏まえ、より高品質な花きを出荷しようと積極的な意見交換がなされた。

農業普及課では、今後も天候を踏まえた栽培管理情報の提供など、品質の高い花き生産の支援を行う。



【品質を確認する部会員】

## 魅力ある農村づくり

### ■えごま 合同研修会で除草機を実演

郡上地域では古くからえごまの栽培が盛んで、各地区に生産組織はあるものの、これまで技術情報の交換など連携した活動はしていなかった。

このため、郡上市農務水産課と農業普及課が各地区の組織に呼びかけ、8月5日に合同研修会を開催した。

今回は、昨年度白鳥地区に導入された「えごま除草機」の実演も行い、雑草対策に悩む他地域の生産者にとって興味深い内容となった。

農業普及課では、今後も合同研修会など市内のえごま生産を盛り上げ、地域の活性化に取り組む。



【除草機に興味津々】